



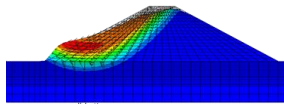



河川堤防の浸透時の安全性評価技術

シーズ技術名

分野分類 22 土木工学およびその関連分野

技術キーワード 河川堤防, 現地調査, 照査・設計, 室内試験, 不飽和浸透錬成極限つり合い解析

産業分類

内 容	概 要	河川堤防の多くは、洪水で被害を受ける度に、徐々に嵩上げと拡幅を繰り返してきた歴史的かつ長大な地盤構造物であり、今まで、高さと幅の形状を重視した管理がなされてきました。しかし、昨今の度重なる決壊を受けて、堤防内部の地盤の評価を訂正に行う、新しい照査・設計手法が必要となっています。本研究では、河川堤防の簡易な地盤調査と現状の照査・設計手法に変わる室内試験と安定解析の開発と提案を行っています。			
	従来技術・ 競合技術 との比較 (優位性) 本技術の 有用性	<p>現地地盤調査</p>  <p>室内試験</p>  <p>安定解析</p> 	<p>河川堤防の安全評価を行うためには、現地堤体の浸透ならびに強度・変形特性を適正に評価する必要があります。国土交通省ならびに(国研)土木研究所などと協力して全国 20 カ所以上の堤防を対象に実施した現地調査と室内試験の研究実績から、河川堤防の浸透時の安全性を簡易かつ合理的に評価する技術の開発と提案をしています。</p>		
		 <p>堤防土の簡易サンプリング</p>  <p>堤体の現場透水試験</p>	 <p>新開発の 2 重管サンプラー</p>	<p>河川堤防土の浸透時の強度特性を適正に評価するための新試験法「吸水軟化試験」を細粒土から礫質土まで実施します。</p>	<p>河川堤防の浸透破壊は、基礎地盤を含む複雑な地盤構成が影響するため、それを適正に反映できる安定解析が必須です。不飽和浸透連成剛塑性法(SF-RPFEM)による安定解析が有効です。</p>
	技術シーズ保有者	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授 小高 猛司			
技術シーズ照会先	名城大学 学術研究支援センター 052-838-2036/052-833-7200 sangaku@ccml.meijo-u.ac.jp				

■知的財産

■試作品状況

無

提示可

提供可

作成日 2019 年12月13日